

光市立室積小学校 令和4年度 現職研修助成事業（学校）研修概要

研究主題	聞くことを大切にしながら 自分の思いを表現する児童の育成 ～豊かなことばとのふれあいを通して～
------	--

1 研究主題の設定について

昨年度から、外国語教育のよさを生かした国語科における「話すこと・聞くこと」の領域で研究を進めています。今年度は、2年目ということで、昨年度研究を始めた研究主題の成果と課題を生かしながら、さらに「話すこと・聞くこと」への研修を深めました。

今年度も全校授業として、各学年ブロックからそれぞれ1本ずつ、計3本を実施しました。今年、その中の1本を小中合同研修会として行いました。中学校の先生方にも授業を参観していただき、その後共に研究協議を行いました。その他の一人一授業の研究授業については、各ブロックで振り返りを行いました。また、ブロック以外の先生方は、自由参観としていましたが、時間の都合をつけ、多くの先生方が互いの授業を見合い、意見交換をしました。そうすることで、児童が自分の思いを表現するためには、どのような授業にすればよいのかということを全職員が意識をしながら日々の実践を行ってきました。

2 成果と課題

① 単元構想の工夫

昨年度に引き続き、教師が教えたい学習内容を、児童が学びたい内容となるように単元を通した課題設定を各学年で工夫しました。目的意識や相手意識を生み出すことで、「伝えたい」という思いにつながれると考えました。そこで、単元全体を通した目標や獲得したい力を教師側も児童側も意識するようにしました。意欲を継続して主体的に学習活動に取り組むことができました。

2年生の鈴木学級の実践では、話し合いの目的意識を明確にするために、相談したいことについて児童の身近なことや経験したことの中から話題とすることで、児童の興味や関心を向上させ、意欲的に取り組むことができるよう考えられていました。また、「つなぎわざ」を文字化資料としてまとめることで、どんな技があったかやどんな技を使ってみたいかなど、振り返りをして、次に活かすことができるような手立ても考えられていました。教室掲示など、日頃から児童の目に触れる学習の履歴を残していくことも単元を通して意欲を継続させる良い手立てとなっていました。

4年生の高松学級の実践では、社会科で災害のことを学習し、総合的な学習の時間でも防災について3年生に発表するという課題が設定されており、それと国語科の学習を繋げ、教科横断的に取り組む目標が設定されていました。3年生に発表するというゴールを明確にすることで、目的意識や相手意識をもって、児童が意欲的に取り組むことができました。

はまゆう2組の原学級の実践では、在籍児童一人ひとりの目標が設定されており、自分の役割に応じて準備をしてきたものを発表するというゴールも明確でした。児童それぞれが、興味や関心のあるものを活動として設定することで、意欲的に取り組むことができしていました。また、先生方を招待して交流するという計画のため、本時にむけて何度も練習をし、慣れた活動を行うことができるように単元計画を立てていたことが効果的でした。

② 見通しがもてる導入

見通しをもって学習に取り組むことで、学級全員が参加できるような授業をつくることをめざしています。そのためには、導入でしっかりと課題を把握したり、活動内容を理解したりすることが必要なのだと思います。

3年生の磯部学級の実践では、「山小屋で三日間すごす」という教材の設定が児童の興味や関心をひくものでした。その中で、考えをまとめるときに大事なことは何かという課題が設定されており、話し合いの技を獲得する工夫がされていました。また、写真や音声を使ってイメージを膨らませたことも想像力を働かせ、活動の意欲化につながっていたのではないかと思います。

3年生の辻学級の実践では、毎時間話し合いの目的を確認しました。そうすることで、本時の話し合いでは、何を目的としているのかということ意識付けることができました。また、班で話し合う際に、司会の台本を用意しておくことで、司会役の児童は、見通しをもって話し合いを進めていくことができました。即興的に司会をするには、個々の能力に左右されるとこ

ろもあるので、こうした台本などが用意されていることで、どの児童も安心して活動をすることができるのではないかと思います。

5年生の山本学級の実践では、前時の振り返りから単元を通した目標である良い「聞き手」や良い「話し手」とは、どのような姿なのかということを確認しました。そうすることで、本時で重点的にめざしたい姿を児童自身に意識させ、活動へとつなげました。また、音声資料を使い、実際の話合いのどのような場面が良かったのかを聞かせることで、本時の活動への意欲につなげました。

③ 1時間の授業づくり

今年度は本研究主題で2年目ということもあり、昨年度の実践から活かせるものは活かしながら、新たなチャレンジに取り組みました。

今年度の研究の特徴の一つとしては、話合いの役割分けで、話合いの様子を客観的に聞く役割をつくった実践を行ったことだと思います。5年生の山本学級の実践では、音声録音をしながらも、客観的に話合いの様子を聞く役割を設定しました。その際、互いに話合いの様子を聞き合うペアを決めました。4年生の堅多学級の実践では、学級を二つのグループに分けて、話合いをするグループとそれを観察するグループにしました。話合いの様子を見ながら、良かったところなどをどの児童も一生懸命に書いていました。その他の授業でも、話合い活動をする際に、役割分担をするなどの工夫をすることで、児童自身で振り返ることができるようにしていました。

1年生の山本学級の実践では、個の学び、全体の学び、ペアの学びを効果的に使い分けながら活動していくことで、聞き方の技を徐々に獲得させていくことができました。文字化資料を活用し、2つのインタビューを比べ、聞き方の技に気付かせる手立ても効果的でした。そして、その児童が気付いた技をすぐに試すことができるように学習活動が設定されていました。そうすることで、一時間の授業の中で、技に気づき、それを実践し、振り返るという学習パターンが、児童の意欲につながっていました。

④ UDの視点

どの児童も参加できる授業をめざして、様々な配慮が考えられていました。

2年生の鈴木学級の実践では、話合いのデモンストレーションを教師と児童全員で行いました。教師がお手本となることで、良いモデルを示すことができました。意外とお手本のイメージをつかむことができずにいる児童は多く、このような手立てがどの児童も参加できる手立てになるのだと思いました。また、その教師と児童のやり取りの中に、日頃からの関係性も垣間見え、温かい雰囲気、先生に何とかアドバイスをしようとしている児童の姿が印象的でした。

4年生の堅多学級の実践では、役割ごとの話型や行動を示した進行カードや意思表示が簡単にできるような賛成・反対カードを活用して授業をしました。このような誰もが安心して授業に取り組むことができる手立てを、学級の実態に応じて事前にどんな場面が必要かを考えることで、自分の考えや思いを表現できるのではないかと思います。また、授業でグループごとにまとめたグラフシートを作成することで、学習の成果と課題をいつでも意識できる工夫がされていました。宝箱(ゴール)を示すことで、学びの変容を児童自身が感じるきっかけも効果的でした。

通級指導教室の藤井教諭の実践では、絵カードを使い言葉の意味を確認し、大小の色別磁石を使い文字の音を視覚化していました。そのような教材や教具を一つ一つ活動に応じて、提示したり活用したりすることで、児童に合った進め方ができ効果的でした。また、手拍子を使ったり、学習のパターン化をしたりするなど、活動ごとの流れや時間配分がしっかりと考えられており、最後まで児童の意欲が継続することができていました。

⑤ ICTの活用

タブレット端末を活用した授業を積極的に取り入れています。使うことが目的とならないように、バランスを意識しながら効果的に活用しました。

6年生の古川学級の実践では、自分の話合いの様子をタブレットで録画していました。高学年ともなると、日頃からタブレットの活用に慣れているため、使い方などの説明に時間を使うことなく、必要な場面で効果的に使うことができます。今回の授業でも、話合いのグループが交代する際に、すぐに準備を整え活動する姿が見られました。目的に合わせて、ICTをバランスよく活用していくことが今後も大切になっていくのではないのでしょうか。

6年生の柏村先生の実践では、振り返りにICTを活用していました。これは、毎時間の授業の振り返りで行われており、単元ごとに蓄積されているので、いつでも児童が見返してこれまでの学習を想起したり、気づきを共有したりするなどの活

用に利用されていました。また、この振り返りに教師がコメントを書いたり、ポイントをつけたりする工夫があり、振り返りの充実が図られていました。

はまゆう1組の住田学級の実践では、言葉の意味を一つ一つ丁寧に確認をしました。その中で、言葉だけでは意味を捉えにくいものについては、タブレットを使い写真を提示することで、視覚的に捉えやすくする工夫がされていました。このような丁寧な活動を入れることで、一つずつ新しい言葉を獲得していくのだと感じました。

3 主な実践記録

- 6月9日(木) 研究授業 6年 外国語科「ようこそ日本へ～Welcome to Japan.～」 柏村 沙織 教諭
- 6月22日(水) 全校授業 5年 国語科「きいてきいてきいてみよう」 山本 貴之 教諭
(指導者 山口大学教育学部附属光小学校 有田 友萌 様)
- 8月9日(火) 全校研修 小中合同研修会
- 9月28日(水) 全校授業兼小中合同研修会
4年 国語科「クラスみんなで決めるには～レベルアップ学級会～」 堅多 美咲 教諭
(指導者 山口大学教育学部附属光小学校 有田 友萌 様)
- 9月29日(木) 研究授業 はまゆう2組 自立活動「はまゆう祭りプロジェクトを成功させよう」 原 弘美 教諭
- 10月12日(水) 研究授業 3年 国語科「対話の練習 ～山小屋で三日間すごすなら～」 磯部 敦美 教諭
- 10月17日(月) 研究授業 通級指導教室 自立活動「言葉を正しく発音して、書こう」 藤井 路子 教諭
- 10月24日(月) 研究授業 1年 国語科「ともだちしょうかいずかんをつくろう」 山本 夕子 教諭
- 11月1日(火) 市教研授業 6年 算数科「図形の拡大と縮小」 柏村 沙織 教諭
(指導者 山口大学教育学部附属光小学校 兼安 陽一朗 様)
- 11月2日(水) 研究授業 4年 国語科「調べて話そう, 生活調査隊～防災発表会その1～」 高松 貴子 教諭
- 11月9日(水) 研究授業 6年 国語科「話合い名人になろう～50cmパーティーを成功させるために～」 古川 俊裕 教諭
- 11月16日(水) 研究授業 3年 国語科「進行を考えながら話し合おう～はんで意見をまとめよう～」 辻 彩 教諭
- 12月1日(木) 全校授業 2年 国語科「そうだんにのってください～みんなで話をつなげよう～」 鈴木 紗耶 教諭
(指導者 山口大学教育学部附属光小学校 有田 友萌 様)
- 12月15日(木) 研究授業 はまゆう1組 国語科「くじらぐも」 住田 友宏 教諭

4 来年度に向けて

今年度も昨年度に引き続き「話すこと・聞くこと」に主軸に置き、研究を進めてきました。昨年度手探りで始めた研究主題だったものが、これまでの実践により具体化されてきました。何より教職員全体で、意見交換をし、それを自分の授業に生かそうとする実践意欲があることで、今年度も様々なチャレンジができたのではないかと思います。昨年度実践して良かった文字化資料の活用やICTの活用などを授業の中に取り入れたり、よりよい振り返りができるような手立てを工夫したりするなど、具体的な方法を確立できました。そうして試行錯誤を繰り返しながら、どの学級でも児童が自信をもって自分の考えや思いを表現する場の設定を実践しました。児童が生き生きと意見を交わしたり、話合いをしたり、発表したりする姿が、今年度の研究を進めてきた何よりの成果だったのではないかと思います。

来年度も「話すこと・聞くこと」の領域について、研修を深めていきたいと考えています。